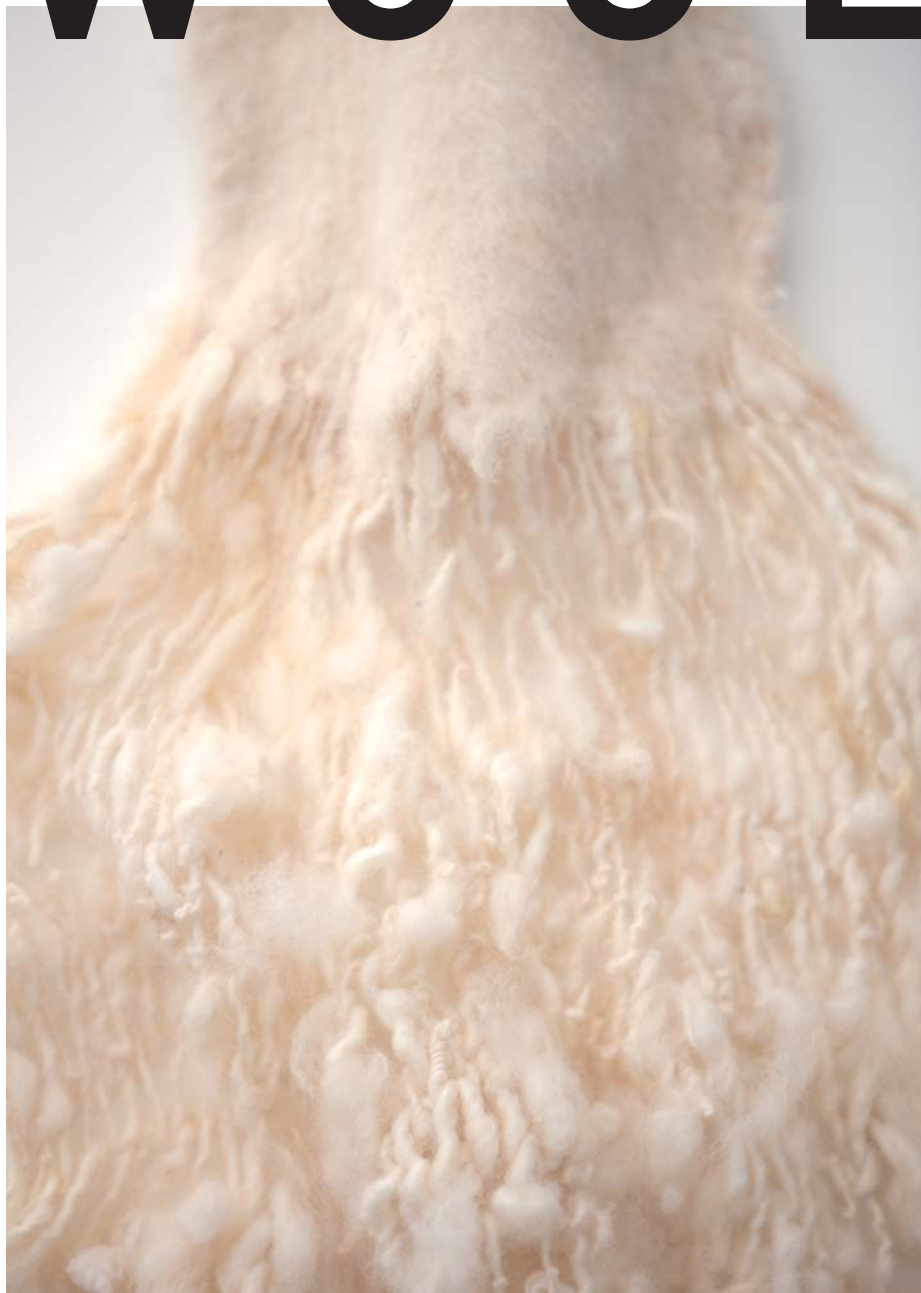


WOOL



ウールのチカラ展

「素材」を大事に考えることは無印良品モノ作りの基本的な考え方です。

「素材」が持つ力を研究し、時代に向けて提案する。

素材の「力」が最大限に発揮され、お客様の「暮らし」のお役に立つことが私たちの想いです。

人の歴史と共に歩んできた羊とウールを先人達が長く利用してきた訳がうなずける展示です。

私達モノ作りにとっても気づきになる新しい視点の展覧会をどうぞ楽しみください。

2013年9月6日(金) — 10月6日(日)

10:00 — 21:00 [会期中無休] 入場無料 <http://www.muji.net/lab/ateliermuji/>

ATELIER MUJI

ウールのチカラ展

2013年9月6日(金) - 10月6日(日)

10:00 - 21:00

[会期中無休] 入場無料

<http://www.muji.net/lab/ateliermuji/>

無印良品 有楽町 2F

ATELIER MUJI



JR山手線・京浜東北線「有楽町駅」下車[京橋口]すぐ、東京メトロ有楽町線「有楽町駅」下車[D9出口]すぐ、東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」下車[1出口]徒歩3分

「素材」を大事に考えることは無印良品モノ作りの基本的な考え方です。「素材」が持つ力を研究し、時代に向けて提案する。素材の「力」が最大限に発揮され、お客様の「暮らし」のお役に立つことが私たちの想いです。今回は「ウール」をとりあげます。その保湿力、抗菌性、撥水性など、数々の優れた特性を持っています。まさに人の生活に欠かせない機能素材です。科学的に分析すると、繊維自体に多くの空気を含み、水蒸気を吸い込みながら、吐き出すという異なる性質など化学繊維では持ち得ない複合的な機能を持っていることで、ウールは人にとってとてもよい衣服の環境をつくり出せます。人の歴史と共に歩んできた羊とウールを先人達が長く利用してきた訳がうなずけます。私達モノ作りをするものにとっても気づきになる新しい視点の展覧会です。どうぞ楽しみください。

本展では、ウールの力を3つの方向性から再考します。一つめは、デザイン評論家・柏木博氏の寄稿、二つめは、ウールならではの機能性(毛質)についてのテキストと図解、三つめは、羊毛種や加工が異なるウール糸の展示と衣服造形作品です。作品には衣服の原点とも言える手紡、手編み、フェルトの手法が使われています。糸に触れ、作品をご覧いただき、ウールの不思議とチカラを感覚していただきます。大地と羊と人が育ててきたウールを見直すことで、衣服や暮らしの原点を見出し、皆様とともに、生きるための本当の豊かさを再発見してゆきたいと思っております。

トークイベント 「くらしとウール」 柏木博氏 × 眞田岳彦氏

参加無料(要申込)

関連イベントとして、柏木博氏、眞田岳彦氏をお招きしトークイベントを開催致します。歴史、科学、ファッション、文学など、さまざまな領域、そして時代や地域を横断し、人間と羊、そしてウールとの関係についてお話いただきます。

日時—2013年9月6日[金] 時間—19:00-20:30(受付18:30~)
定員—60席 会場—無印良品 有楽町 ATELIER MUJI
事前ご予約はアトリエムジHPにて承ります。(なお、ご予約は満員になり次第終了致します。)
<http://www.muji.net/lab/ateliermuji/>

柏木 博

かしわぎ ひろし

デザイン評論家/武蔵野美術大学教授(近代デザイン史専攻)

1946年神戸生まれ。武蔵野美術大学卒業。現在、とくに「室内」と意識・感覚の問題をテーマにしている。著作『家事の政治学』青土社、『モダンデザイン批判』岩波書店、『「しきり」の文化論』講談社、『玩物草子』平凡社、『探偵小説の室内』白水社ほか多数。展覧会監修:『田中一光回顧展』東京都現代美術館、『電脳の夢』パリ日本文化会館ほか多数。



眞田 岳彦

さなだ たけひこ

衣服造形家/女子美術大学教授

1962年東京都生まれ。イッセイ ミヤケ社勤務後渡英し、彫刻家リチャード・ディーコンの助手を務め95年独立。以降、染織、衣服を通じた造形/デザイン活動を国内外で多数行う。また99年より伝統繊維再考プロジェクトを日本各地で開催、00年より先端機能繊維を使用し、衣服により社会問題を考えるシリーズ「ブレファブコート」のデザイン制作・提供を行う。
眞田造形研究所代表、眞田塾主宰。国立民族学博物館外来研究員。

